

もっと知りたい

武者小路実篤

さね あつ 実篤 作品 を 読んで みよう!

地蔵と鬼



- ①あるところに、地蔵と鬼の兄弟がいました。弟の地蔵は、殺生をする兄の鬼を何とか改心させたく思っています。「仏様、どうぞ私を強い強い人間にして下さいまし。兄に勝てる人間にして下さいまし。」と地蔵。



- ②「俺は自分より弱い奴の云うことは聞かない。」と鬼。地蔵が鬼に一生懸命ぶつかっても、すぐ子どものように投げとばされてしまいます。

- ③以前は動かせなかった石を持ち上げ、「去年から見れば之でも少しは強くなった。」と地蔵。この程度ではまだ駄目と、石を持ち上げたり、木にぶつかったりするトレーニングを重ねます。

地蔵のせりふから

「俺に出来ないことは仕方がない。しかし勉強や、心がけや、根気で他人にまけたら自分の恥だ。」

地蔵のこの言葉は、実篤自身のモットーでもあったのです。

こんな作品

地獄と鬼

「地蔵と鬼」…大正9(1920)年4月、実篤35歳のとき、宮崎県の新しき村で書いた作品。挿画は、友人の画家・岸田劉生が、単行本「童話劇三篇」(大正10年12月、新潮社)を出版するときに描いたもの。



④一年後、夢の中で地蔵は、思いを寄せていた少女と再会します。「どうせ出来ないことをする為に、苦しい思いをするのは馬鹿気た無駄の話よ。」と、少女は地蔵を誘惑して、地蔵の決心をくだこうとします。さて、その少女の正体とは…?



⑤自分の力が足りないのを地蔵が嘆いていると、仏様があらわれて、「お前の兄さんの鬼にお前はもう勝つ力は十分持っているのだ。それなのに、お前はその力がまだ自分にはないと思っているのだ。……お前のながい間の精進*は、お前にその力を与えた。」とさします。
 (* 精進：一生懸命努力すること)



⑥はたして、地蔵が自分の力を信じて大きな石を持ち上げると、石は楽々と上がり、大木に「折れろ」と言えば折れ、鬼に「人を殺してはいかんぞ。」と言うと、鬼は腰をぬかし、角が折れてしまいました。こうして、地蔵は鬼を改心させることに成功しましたとさ。



「地蔵と鬼」を書いた頃の実篤(左)と、友人の志賀直哉(右)。大正9(1920)年、新しき村の実篤の家の前で。

考えてみよう!



最後に、地蔵が鬼に勝てたのはどうしてかな?

- トレーニングを重ねて、本当に強くなったから?
- 自分のやってきた努力を信じたから?